



【第8号竪穴住居跡】

竈の中からは煮炊きに用いる甕などが出土し、近くの壁際からは2個の瓶が並んで出土しました。



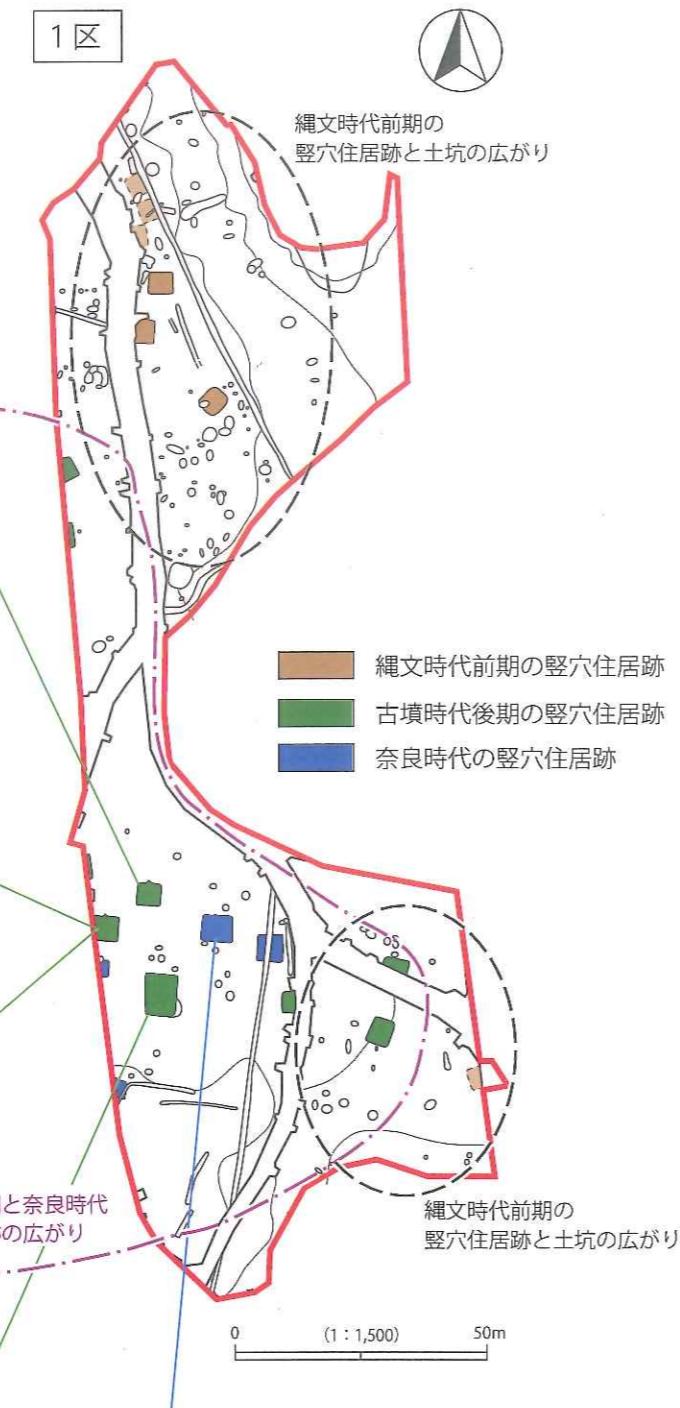
【第5号竪穴住居跡】

多量の土師器や、東海地方で作られた須恵器の蓋・平瓶の他、マツリに用いられるミニチュア土器も出土しています。



【第6号竪穴住居跡】

竈ではなく炉が設けられていました。北壁付近には、バラバラになつた土器がまとまつてありました。



【第7号竪穴住居跡】

北壁に竈をもち、その反対側に出入り口、そして四隅には柱の穴がある典型的な竪穴住居跡です。

平成30年11月11日(日) 平成30年度第5回発掘調査遺跡現地説明会資料

熊ノ平古墳群 (くまのだいらこふんぐん)

所在地: 行方市両宿猫平517番地ほか

調査期間: 平成30年6月1日～11月30日

調査面積: 17,535m²

委託者: 国土交通省関東地方整備局常総国道事務所

調査原因: 東関東自動車道水戸線(潮来IC～鉢田IC)建設事業

調査機関: 公益財団法人茨城県教育財団(行方事務所)

Tel: 029-225-6587 <http://www.ibaraki-mabun.org>

1 遺跡の概要

熊ノ平古墳群は、行方市の北部、武田川右岸の尾根状に延びる標高約20mの台地上に立地しています。当遺跡には2基の古墳が存在するとされ、今回が初めての発掘調査となります。周辺には新堀古墳群や大塚古墳群など複数の古墳の存在が想定されていますが、いずれも調査は行われていません。



遺跡位置図 (『茨城県デジタルマップ』より)

2 調査の成果

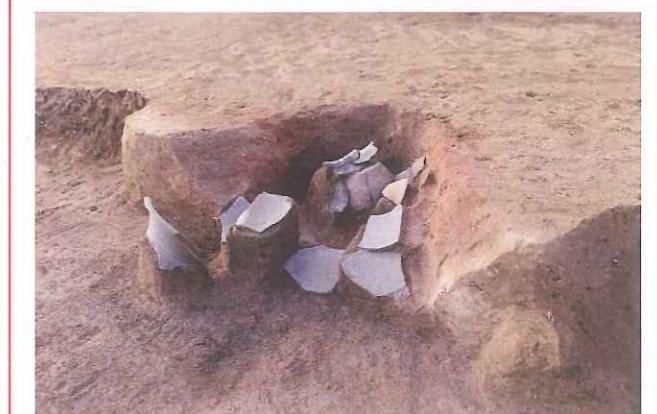
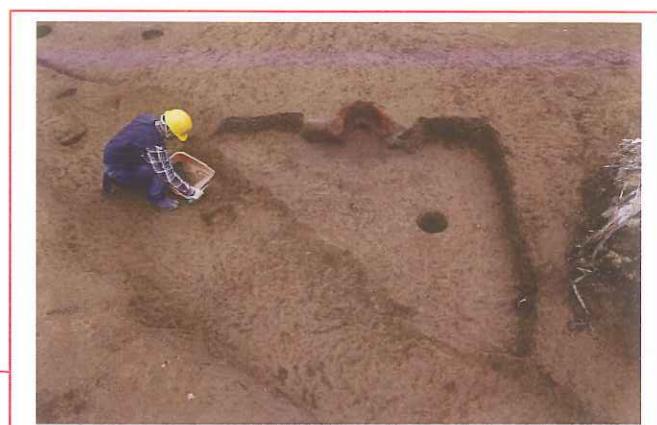
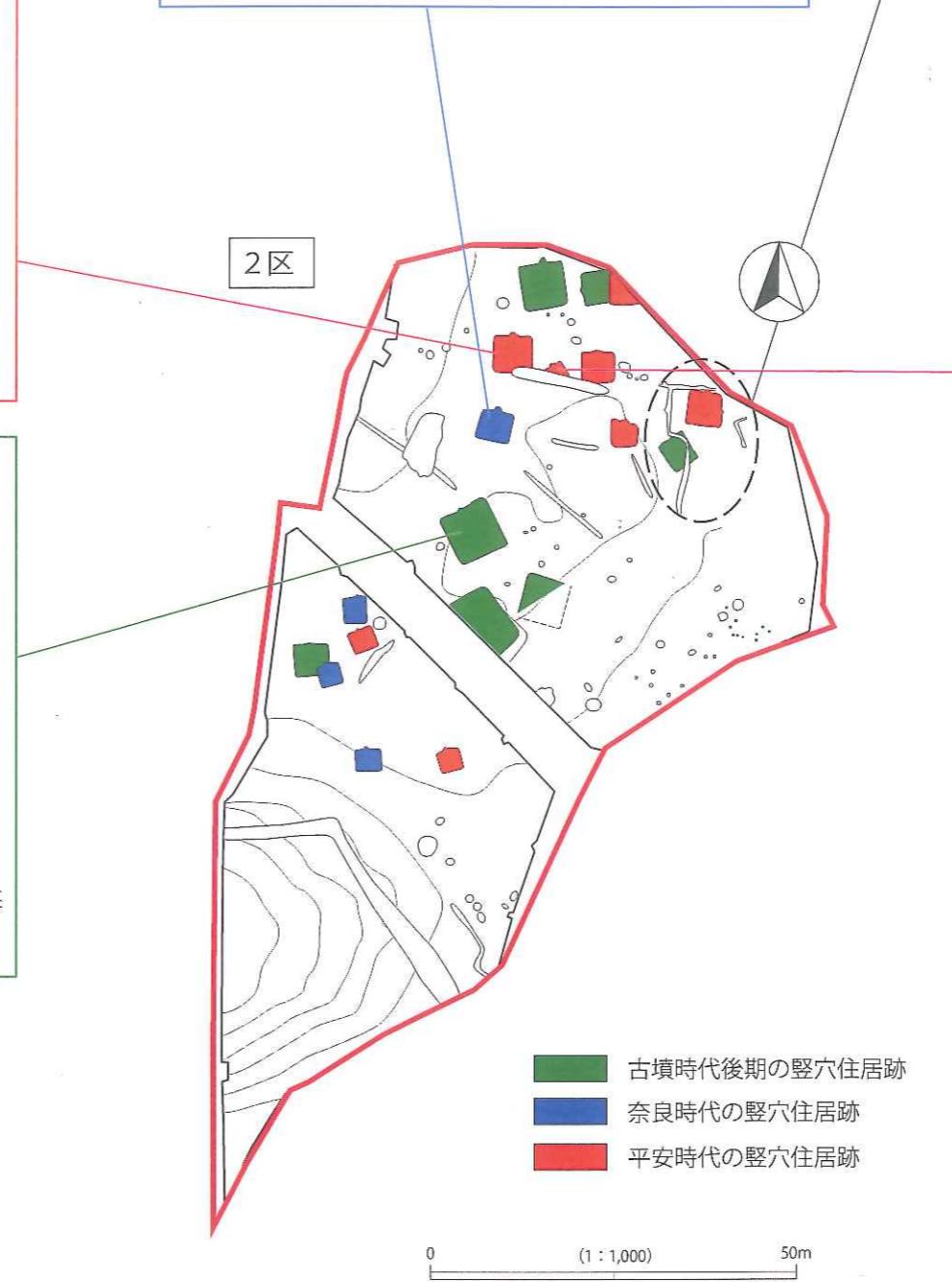
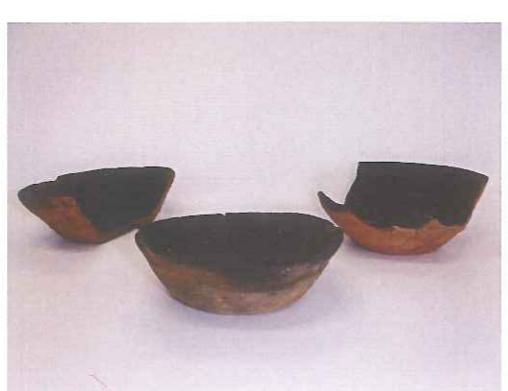
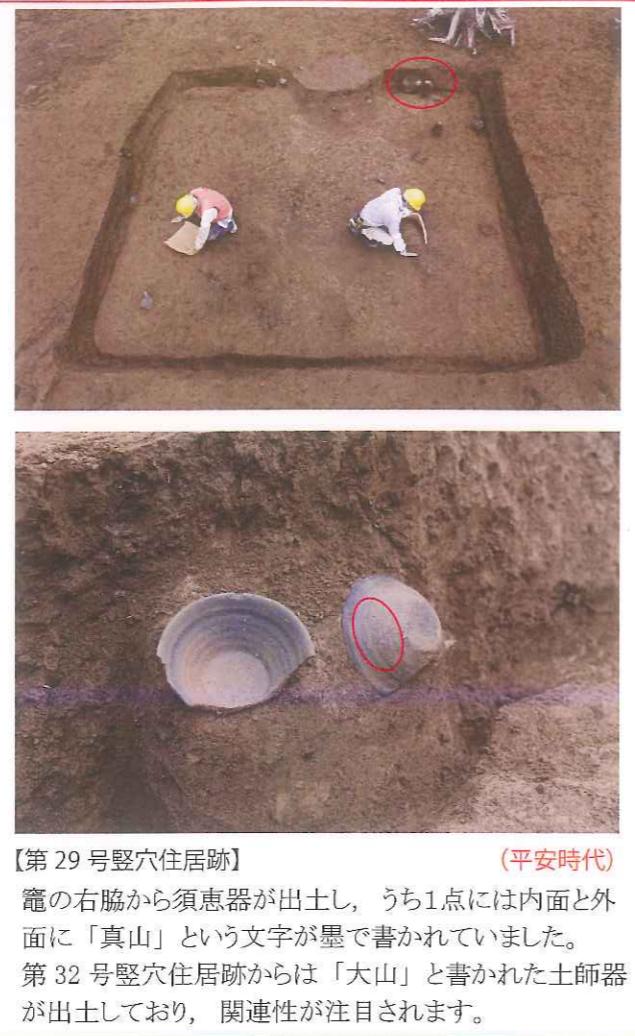
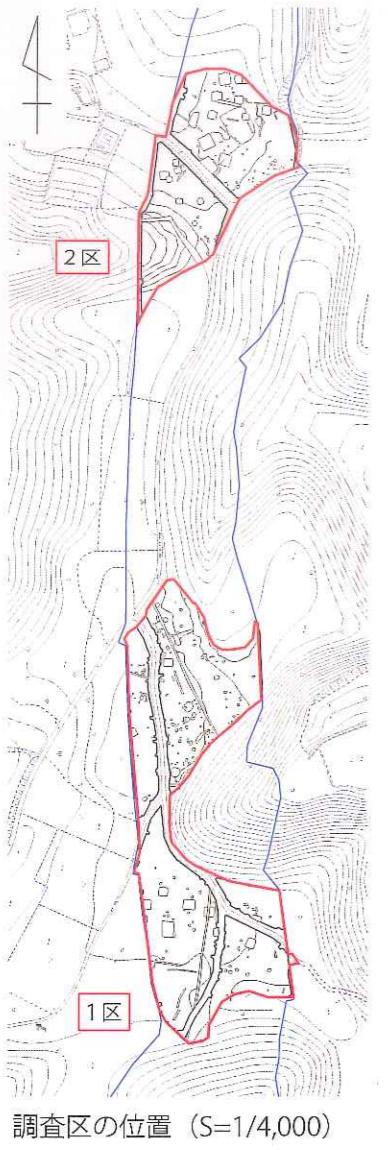
今回の調査では、縄文時代前期(約5,500年前)の竪穴住居跡や土坑をはじめ、古墳時代後期(約1,400年前)の竪穴住居跡16軒や奈良・平安時代(約1,200～1,300年前)の竪穴住居跡16軒などを確認しました。古墳時代後期の集落では、地元で作られた一般的な土器である土師器の他に、東海地方で作られた須恵器が複数の住居跡から出土しました。当時の須恵器は、地域の有力者が交易などによって入手したものと考えられ、地域間交流の一端が垣間見えます。また、平安時代の竪穴住居跡からは墨書き土器(墨で文字が書かれた土器)や、灰釉陶器という釉薬を用いて作られた高級な器が出土しました。墨書き土器は、「大山」「真山」の2種類があり、地名もしくは人名を表すと考えられます。灰釉陶器は、古墳時代の須恵器と同様に東海地方で作られたもので、時代を超えて他地域との交流・交易がおこなわれていたことが明らかになりました。



竪穴住居跡の発掘調査 (第28号竪穴住居跡)



竪穴住居跡の発掘調査 (第30号竪穴住居跡)



この資料は、調査中の情報であり、
最終的な結果ではございませんので、
引用・掲載はご遠慮願います。